

1 自己評価

自己評価結果及び考察は、別紙のとおり

2 学校関係者評価

2月21日（火）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員会からは以下のような意見があった。

- ・あいさつについては、他の項目に比べると低い部分はあるが、あいさつができるようになるために自分たち（委員）ができることを考えていきたい。
- ・悩みを伝えることができる児童はよい。そうでない児童への手立てが必要。
- ・「子ども理解」「開かれた学校」の項目について、D（よくない）という保護者がいる。その保護者へは理解してもらうために何か対策を講じたか。
- ・報告を聞き、子供たちがはりきって学校に通っている様子が伝わってきてうれしい。
- ・学校の目標を一般の人にも知ってもらうとよい。企業や商店で掲示をしてもよいか。
- ・「心理的安全性」は企業、組合でも言われることであり、大事なことだが難しいことでもある。お互いを認め合う必要があり、完璧に行おうとするとハードルが上がる。やれることからやっていくことが必要。学級の中でどのように行うか、意識することから始める。家庭も同じ。
- ・好きなことを見つけられれば社会に出ても困らない。好きなことを見つけられるような学校にしてほしい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・いじめアンケートや保健アンケートだけでなく、日々の授業や本読みカード等、日々の様子から子供一人一人の変化を見落とさず、学年、学校体制で取り組む。また、校内での連絡を密にし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携を図りながら取り組んでいく。
- ・項目のD評価については、PTA総会や学校だより等で様子を知らせながらご理解いただくよう努める。また、特に評価が低かった項目については、学級懇談会や学年だより等で保護者に様子を伝えていく。
- ・「心理的安全性」については、まず職員から雰囲気づくりを行う。それを受け、学級でも自由に発言できる雰囲気、受容したり共感したりすることができる雰囲気づくりを心掛ける。
- ・学校教育目標に関してはホームページに掲載したり、PTA総会で伝えたりしながら保護者の理解を得るように努める。
- ・学年ごとの校外行事や職業講話、各行事を通して、子供たちが「楽しい」「取り組んでみたい」と思うことに出会えるよう工夫する。